

一般質問

市道(子)1号線の今後について

山崎 雄平 議員

質問 幹線道路市道(子)1号線は、横堀方向から大勢の人達に同意協力を得て、途中まで来ている。神社の前で止まっている状況、今後どうする考えか。

答弁 合併に伴い当面優先すべき路線として、市道(子)1号線は平成20年度からスタートした総合計画に掲載

がないため、当面は事業に着手予定はありません。

質問 横堀、北牧西、北牧東の自治会が路線の地区にあり地域は完成したとは思っていない。わずかな区間であり、要望書も出されている。拡幅、バイパスの実現を強く切望する。

答弁 計画は完成したとは

思っています。また、地元から要望書が提出されていることも承知しています。関係者の方々の意見をお聞きし検討します。

質問 市の総合計画、建設計画にもないが、何とか完成させる計画はないか。

答弁 新市建設計画に掲載があり、総合計画に反映し整備できるか検討します。

質問 白井城址整備と活用について、シンボルにしたと言う市長は、いつ、どのように実現させるのか。

答弁 関係する部署間の連携を図りながら具体的な検討に入り、早い段階で一定の方針を示す予定です。

質問 どの城も入館料収入で整備の費用をまかなっている。7億2000万円も売り上げて百万人のレジ通過者がある道の駅。城とのにぎわいを重ねては。

答弁 白井城址が整備されればさらに集客力の増加につながるかと考えます。観光としての活用を視野に入れ協議していきます。



渋川広域消防北分署

市民の身近な問題

学校統廃合

質問 学校統廃合は時間をかけ検討し、地域の合意を得ることが重要、現在の取り組みと方向性を伺う。

答弁 少子化の進行による児童・生徒の減少に対応する必要があるので、平成20年11月に適正配置研究会を設置し、1年間を

平方 嗣世 議員

て基礎資料の収集等を行い、生徒・児童数の今後の推移、各地域の状況、基本的な考え方等について調査・研究を進めてきました。

今後はさらに詳しい状況について分析を行い、できるだけ早い時期に学校適正配置基本方針の策定をしていきたいと考えています。

学校給食

質問 老朽化、衛生管理面で整備が急務、一調理場に複数の調理施設の設置等、安全に関わる施策と災害時における配送手段を伺う。

答弁 現在使用しているすべての共同調理場及び自校給食について、老朽化が進んでいること、また安全基準に達していないため、早急な建て替えが必要な状況であり、そのため、学校給食調理場の整備方針に基づき、現在、共同調理場2カ

所の整備を進めています。また、安全に関わる災害時における配送手段については現在の段階では考えていません。

消防・救急対策

質問 消防車、救急車の進入困難地区の解消について伺う。

答弁 繁華街等の狭い道路での消火活動については、ホースを何本かつなぎ合わせ、延長することで対応しており、特に支障があるとは聞いていません。



地元要望の出されている市道(子)1号線

一般質問



市内NPOの主催する農業体験

地球温暖化防止対策について

茂木 弘伸 議員

質問 市の温暖化対策実行計画の状況は。

答弁 平成20年度の温室効果ガスの排出量は、基準年と比較し7・41%の削減となっております。

質問 市では昨年補正で太陽光発電システムに補助制度を創立したがその状況は。

答弁 補助金の交付状況で

すが、予算上60件に対し、3月8日現在で49件となっております。

質問 県が新たに温暖化防止条例を制定したが、市への影響は。

答弁 温室効果ガスの排出量、駐車場の面積、自動車保有台数、職員数等、一定規模を超過すると各種義務

規定が適用されます。
質問 渋川版環境家計簿が各戸に配付されたが、これを利用し市民の意識改革をもっと図るべきだと思いが。

答弁 この取り組みをさらに充実させるための仕組みづくりの検討とあわせて、市広報紙やホームページ等により積極的に啓発していきたいと考えています。

質問 防犯灯や街路灯など数ある照明をLEDに変えていく考えは。

答弁 蛍光管に比べ器具の

費用は高いが、電気料が安く寿命が長い、LED防犯灯の導入を検討したいと思

どうする渋川の自給率向上

大島 勝昭 議員

質問 地球温暖化、世界人口増加、水不足等による食料不足が懸念され、食料自給率向上が求められています。飼料米、稲等耕畜連携をも含めた多様な取り組みが必要と思います。渋川市の考えは。

答弁 認定農業者や集落営農組織などの担い手を中心

として、遊休農地の解消や利用権の設定等により、生産振興を図るとともに、耕種農家と畜産農家の連携による飼料稲の生産も一部で実施しており、こういう地域での取り組みも推進していきます。

質問 勤労市民を対象に年間を通して、作物栽培の耕

種会を実施してやる気のあ

大が図れるよう取り組んで

答弁 県で実施している「ぐんま農業実践学校」や農協で実施している就農支援講座の活用など、関係機関と連携し、支援していきたいと思

質問 米飯給食の拡大で自給率の向上を目指す考えは。

答弁 各調理場では以前から米飯の拡大に取り組んできましたが、今後さらに拡大

いきます。

食農体験で担い手の育成を
質問 県のモデル事業で食農教育を実施しているが、成果と課題は。また今後の取り組みについては。

答弁 該当校では農業関係者等から米や野菜作りなど、育てたり調理したり食べたりする体験学習により農作物を育てる喜びや自然の恵みに感謝する心を学んでいます。ほかの学校でも同様に取り組んでいます。今後さらに充実させていきます。



活用が期待される環境家計簿